

6つのまちの姿 環境に配慮した産業の活気があふれ、国際貢献するまち

重点分野 環境に配慮した産業の振興と国際貢献の推進

重点課題 環境関連産業の振興・育成と環境技術による国際貢献の推進

重点目標・指標と達成状況

重点目標・指標の達成状況	達成状況	指標評価	分野評価
① 海外からの環境技術視察・研修の受入人数：(2009年度1,143人)より増やすこと	・エコタウン施設受入人数329人 ・エコタウンを除く受入人数205人 (対前年度：308人減少、対基準年度：減少)	なし	2
② 環境に係る国際会議・イベント等実施状況	川崎国際環境技術展等を開催 (対前年度、対基準年度：現状維持)	3	
③ 環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	共同研究事業実施数：累計31件 ・川崎市の地域特性を活かしたスマートシティモデル事業検討等 (対前年度：6件増加、対基準年度：多い)	3	

市の取組

実施状況

- 川崎のフィールドを活かした産学公民連携した共同研究による環境技術開発の推進
 - ・都市と産業の共生を目指した共同研究（産学公民連携）の推進
 事業者、大学、研究機関等との連携により実施した共同研究は次のとおりです。
 - ◇川崎市の地域特性を活かしたスマートシティモデル事業の検討
 - ◇クラウドコンピューティングにおける環境情報サイクルの構築に向けた実証研究
 - ◇省電力圧電センサーシステムの医療及び福祉への応用研究
 - ◇環境資源の有機的連携に向けた研究
 - ◇川崎市の「人」「場所」「情報」を活用した環境・まちづくり意識の普及啓発手法の構築・実践と効果検討、及び持続的展開手法・促進方策等の提案
 - ◇南河原こども文化センターにおける地中熱利用空調システムの実証研究
- 環境、エネルギー等分野の研究開発型先端産業の創出と集積の促進
 - ◇先端産業創出支援制度を内容拡充のため見直しを行うとともに、当該制度等を活用し環境・エネルギー・ライフサイエンス分野の先端産業の立地促進を図りました。
 - ◇新エネルギー産業の普及促進を目的とした「新エネルギー産業セミナー」を2回開催しました。
 - ◇川崎市新エネルギー振興協会の事業実施を支援し、新エネルギー関連企業の交流の促進や新エネルギー産業の普及啓発を図りました。
- 川崎の優れた環境技術情報の収集・発信
 - ・川崎の優れた環境技術情報の収集・発信
 - ◇「環境技術情報ポータルサイト」及び川崎の環境問題への取組等を紹介したパンフレット「川崎から世界へ伝える環境技術」を用いて環境技術情報を発信しました。
 - ◇川崎ゼロ・エミッション工業団地において小学生親子向けのエコ学習を開催し、ゼロ・エミッション工業団地での取組を市民に情報発信しました（5回のべ158名参加）。

●国連環境計画（UNEP）連携協調事業の推進

産業と環境が調和した接続可能な都市モデルを形成するため、国際環境施策を推進しています。

UNEP と連携した「アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催や、友好都市である中国瀋陽市をはじめ海外からの視察・研修の受け入れなど市内企業の優れた環境技術や本市の環境保全の経験を活かした国際貢献を進めました。

●環境技術研修生受入や指導者派遣など環境技術の海外移転

・環境問題の取組支援のための人材の派遣、研修生の受け入れ促進

◇海外から 534 名の視察がありました。

◇中国・上海市への企業ミッション団の派遣と上海市環境技術研修生（2 名）の受け入れを行いました。

◇第 15 期瀋陽市環境技術研修生として、中国・瀋陽市から 2 名の研修生を受け入れました。環境行政研修、環境専門技術研修など 29 日間にわたり研修等を行いました。

1997 年度から研修生を継続して受入し、延べ 33 名となりました。

●アジア各国のベンチャー創業拠点となるアジア起業家村構想の推進

アジアからの起業家の創業拠点づくりを目指した「アジア起業家村構想」の推進により、企業や起業家を誘致・育成するとともに、市内企業等との人的・技術的交流を促進しました。3 社が新規入居し、入居・卒業企業は累計 33 社となりました。

●環境技術の集積をもつ企業・研究機関等との連携による、市民の環境技術に対する理解の促進（環境教育・環境学習）

・臨海部における民間主導型の環境産業の立地等のエコタウン事業の推進

川崎ゼロ・エミッション工業団地において小学生親子向けのエコ学習を開催し、ゼロ・エミッション工業団地での取組を市民に情報発信　：5回のべ 158 名参加